

Tuner's Voice
by オートクラフト 白髭さん

ついに300km/h オーバーを達成!! 200マイル越えを 目指していきますよ

やりました!! 200マイルを狙っていたので悔しい部分もあるんですが、実は、最初のアタックでエキマニにクラックが発生し、わずかに排気漏れを起こしていたので、急遽ブースト圧を1.7kg/cmに引き下げたんです。アタックを終えたDaiさんが「NOSの効果は30~40psアップくらいにしか感じられなかった」と言われていましたが、実質的にその通りだったワケです。とにかく記録の大幅更新は嬉しいです! 200マイルを目指して、また挑戦させてください!! そう言えば以前、飯田アキラさんに「86で300km/hは無理だよ」と言われたんですが、出ましたよ! アキラさん!!



今回、新たな武器として採用したのが、約70psを上乗せするNOSだ。当初は自動噴射するプログラムを組んで裏ストレートでNOSを使う設定となっていた。しかし、今回はスタートポイントの変更、スタッフが常駐するメインストレートでの最高速アタックとなったため、手動噴射式に変更された。



SPECIFICATIONS

■エンジン：ボルグワーナー-EFR7670タービン・NOS/オートクラフト・セミクロスデッキ加工、エキマニ、70φピックスロットル、70φフロントパイプ、80φマフラー、700ccインジェクター、265ℓ/h燃料ポンプ×2、2層インタークーラー、3層ラジエーター、13段オイルクーラー、ECUTEK/CP-ピストン/BC-コンロッド/トラスト・プロフェック ■ドライブトレイン：ATS・ツインプレートクラッチ/サードトルセンLSD/3.5ファイナルギヤ ■サスペンション：アラゴスタ・A.C.E+スベック車高調(F14kg/mm R16kg/mm)/A.C.E+強化フロントロウアーム、リヤピロワーム、トラクションアーム、トーコントロールアーム、ロールセンターアジャスター ■ブレーキ：制動屋・6ポットキャリパー+332φローター(F)、4ポットキャリパー+316φローター(R) ■ホイール：ボルクレーシングZE40(FR10J×18) ■タイヤ：アドバンA050(FR265/35R18) ■インテリア：ブリッド/パケット/デフィ/追加メーター ■エクステリア：A.C.E+リヤウイング



エンジンは新たに組み直したもので、圧縮比は9.9から8.9に落としてきたが、基本スペックは踏襲。排気量は280の手まとし、ピストンやコンロッドを強化、強化ヘッドボルトを打ち込んだセミクロスデッキとなっている。これにEFRタービンを組み合わせ、最高出力は480psを発揮する。



メインパイプ80φのチタンマフラー。まるで航空機のような、フェニックスパイプともガレージハ幅とも異なるサウンドを響かせていた。ちなみに、製品版のサーキットスペックマフラーはオールステンレス製となるが基本性能は同じだ。



フロントはエアロを装備せず、リヤは可変式の車輪対応ウイングを装備して空力バランスを整える。アタックの際はドアミラーを撤去し、可能な限り抵抗を低減していた。

IMPRESSION By Dai

FA20は2ℓのまま480psを発生させているから、いわゆる高回転・高出力型。5000rpmから立ち上がってくるパワー感が凄まじいよ。エンジン単体で313km/hをマークしたから、NOSを使ったらどうなるのか...と思ったけど、体感的には30~40psくらいしか感じなかった。加速に大きくは影響していなかったかな。まあ、もちろん断トツで速いんだけどね。挙動も最初はリヤサスが硬くて跳ねたりしたけど、減衰力を落としたりらピタッと安定したし、このマシンは320km/hは十分に狙えるポテンシャルがあるぞ。ただ、これまでのパワーだとミッションは確かに不安。根本的な対策が必要になってくるかもしれないな。



周囲が騒然とする一方で、悲願とも言える記録を達成しつつも白髭さんは「想定内です」と極めて冷静。なぜなら、今回は密かに200マイル(≒320km/h)を狙っていたからである。

そして、満を持してNOSを使用する2回目のアタック。走行安定性を保つため噴射タイミングはドライバであるDaiに任せることとなるが、バンクから立ち上がった後の約7秒間の加速が勝負の時だ。

再び、航空機のようなサウンドとともにオートクラフト86がストレートを疾走。最高速をさらに延ばし、315.66km/hをマークしたのだ!!

それは、まさに快挙と言える大記録!「86/BRZ全開アタック」という本企画をリードしてきたオートクラフト86は、次の目標点として今回は到達できなかった新境地、200マイルを目指す!!